

日本学術会議主催学術フォーラム「原子力発電所事故と汚染水対策」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：平成 28 年 4 月 23 日（土）12:30～17:30
3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

第二次世界大戦の最後に 2 つの原子爆弾を受けた我が国は、原子力の平和利用についても慎重であったが、多くの研究、技術開発に支えられ、54 基の原子力発電所を有するまでになっていた。立地の選択・岩盤立地から活断層の存在、起きうる地震動・津波、その他の自然の猛威を考慮し、安全を第一におき建設され運転されてきた。

原子力発電所の仕組みは現存する大規模人工物の中でも最も複雑なものである。これらの中には並列的な仕組み直列的な仕組み、持ちつ持たれつの仕組みなどが複雑に関係して全体が成り立っている。

東日本大震災を受けて、東京電力福島第一原子力発電所は大事故・大災害を起こした。現在は廃炉に向けた長い道のりの始まりであり、原子力発電所の複雑な仕組みが大規模に破壊されており、震災から 5 年近くの歳月にわたり関係者は最大限の力を注いでいるが、未だ大きな難関の中にあるといわざるを得ない。これに加えて、地上への放射能汚染、地下水や海洋への放射能汚染は広域に広がる大問題であり、確実な対策を続けて進める必要がある。

日本学術会議は東日本大震災復興支援委員会の下に汚染水問題対応検討分科会を設け、第三者の学術の立場から、政府や東京電力の関係者のヒアリング、現地視察などを基に、この問題について広く議論してきた。この度の学術フォーラムでは、「福島第一原子力発電所の立地と事故前の状況」、「福島第一原子力発電所事故による汚染水問題と対策」及び「未経験の大事故対策に関する開かれた議論」に分け、具体的にこの対策に当たっている政府や東京電力株式会社の関係者による説明と、より確実な対策の推進に向けて研究者との開かれた議論を行う。

5. 次 第：

総合司会

沖 大幹（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

12:30-12:40 開会挨拶

花木 啓祐（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学大学院工学系研究科教授）

12:40-12:50 趣旨説明

和田 章（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）

12:50-13:30 「福島第一原子力発電所の立地と事故前の状況」

- 1) 福島第一原子力発電所の立地と常時の地下水対策  
調整中 (東京電力株式会社の技術者・研究者)
  - 2) 福島第一原子力発電所の事故前の状況  
調整中 (東京電力株式会社の技術者・研究者)
- 13:30-14:40 「福島第一原子力発電所事故による汚染水問題と対策」
- 1) 福島第一原子力発電所事故の状況と汚染水問題  
調整中 (原子力災害対策本部廃炉・汚染水対策チーム)
  - 2) 2016年3月までの汚染水対策と今後の予定  
調整中 (原子力災害対策本部廃炉・汚染水対策チーム)
- 14:40-14:55 休憩
- 14:55-17:20 パネルディスカッション「未経験の重大事故対策に関する開かれた議論」ー講演後、登壇者による議論ー
- 司会 嘉門 雅史 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)  
和田 章 (日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授)
- 1) 汚染水対策に関する第三者評価と残る課題 (仮)  
嘉門 雅史 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)
  - 2) 未経験の重大事故に関わるリスク認知 (仮)  
花木 啓祐 (日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学大学院工学系研究科教授)
  - 3) 未経験の重大事故と国内外の社会への説明 (仮)  
丸井 浩 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)
  - 4) 巨大化する技術と重大事故に関わる法学からの意見 (仮)  
吉田 克己 (日本学術会議第一部会員、早稲田大学大学院法務研究科教授)
  - 5) 福島原子力発電所の事故と地域経済への影響 (仮)  
山川 充夫 (日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部地域経済学科教授)
  - 6) 土-水-生物系における汚染水の問題 (仮)  
南條 正巳 (日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授)
  - 7) 流体科学から見た汚染水の動き (仮)  
圓山 重直 (日本学術会議連携会員、東北大学流体科学研究所教授)
  - 8) 水工学の観点から見た今後の課題 (仮)  
小池 俊雄 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)
- 17:20-17:30 閉会挨拶  
嘉門 雅史 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)